



映画『種まく旅人～醪のささやき～』 上映会＆監督トークショーレポート

このたび開催いたしました映画講座（2025. 10. 26）では、淡路島を舞台とした映画『種まく旅人～醪のささやき～』の上映と、篠原哲雄監督によるトークショーを実施しました。参加者からは非常に高い満足度が寄せられ、淡路島の伝統文化と地域活性化について考える貴重な機会となりました。

参加者 300 名にアンケートを配布し、そのうち 252 名から回答があり、回答率 84%でした

I. 講座の概要と参加者の反応

本講座は、淡路島の老舗酒蔵「千年一酒造」を舞台に、日本酒造りの精神と一次産業が抱える課題を描いたヒューマンドラマの上映と、篠原哲雄監督による作品の裏側や淡路島への思いを語るトークショーの二部構成で行われました。

1. 総合評価：感動と共感に満ちた時間

満足度：「大変満足のいく内容だった」「素晴らしい映画でした」「とても良い。一次産業の後継者不足、資金繰り、事業継承の難しさが網羅されていて、今の日本の縮図が浮き彫りにされていた」と、映画・トークショーともに極めて高い評価をいただきました。

2. 映画『種まく旅人～醪のささやき～』への評価

評価のポイント	寄せられた感想の傾向
ストーリー・感動	「心温まる映画」「感動しました」「心がほっと暖かくなりました」など、人間愛や親子の絆に感動したという声が多数。
テーマへの共感	「伝統を受け継いでいく難しさ」「後継者問題、M&A 等現実的な問題に共感」と、一次産業の厳しい現実深く考えさせられた。
知識の深化	「酒造りの現場がよくわかった」「杜氏のお仕事など興味深かった」と、日本酒造りの奥深さや、そこに携わる人々の「ものづくりの精神」に感銘を受けた。
地元愛の再認識	「淡路島が舞台で身近に感じた」「知っている場所がいっぱい出て楽しかった」と、地元の風景や酒蔵がスクリーンに映し出されたことへの喜びと、淡路島の魅力を再認識できたという声が多数。

3. 篠原哲雄監督トークショーへの感想

企画の価値:「映画と共に作り手の話が聞けて良かった」「上映後監督の話をきけてよりよくわかった」と、作品への理解と感動を深める上でトークショーが不可欠であったと評価されました。

貴重な情報:撮影の裏話や、映画に込めた「心に種をまく」というメッセージ、淡路島との深いつながり（前作『くにうみの郷』からの縁）などが聴け、有意義な時間となりました。監督の飾らない人柄や、阪神ファンという親近感のある話題も好評でした。

II. 映画の舞台となった淡路島の魅力

参加者の感動を深めた映画の舞台「千年一酒造」と、作中に登場した重要な要素をご紹介します。

1. メイン舞台：千年一酒造

	詳細	参加者の反応
所在地	兵庫県淡路市久留麻中北 2485-1	「千年一酒造には何度も行き、身近に感じた」「一度行ってみたい」
創業	1875 年（明治 8 年）頃	140 年以上の歴史を持つ、淡路島で数少ない老舗酒蔵。
特徴	兵庫県を代表する酒米「山田錦」などを使い、昔ながらの手造りにこだわる。	「酒作りの大変さ、手間のかかる作業が少し分かりました」

2. キーとなる銘柄

映画で強い関心と呼んだ、千年一酒造の特別な日本酒です。

- 「月の舟」：映画で特別な意味を持つ酒として登場。「月の舟を試飲したくなりました」という感想が寄せられ、多くの参加者の興味を引きつけました。
- 「ロマンス」：感想の中で「ロマンスを飲んでみたい」という声もあり、若い世代の情熱や新たな試みを象徴する銘柄として描かれた可能性があります。

3. その他のロケ地

「花さじきや明石海峡大橋、道の駅あわじ等、スクリーンを通して見ると違った目線で見れて改めて良い場所に住んでいる事を実感した」という感想の通り、淡路島の美しい風景や名所が随所に登場し、島全体の魅力発信に大きく貢献しました。

III. 今後の展望

本講座は、映画というエンターテインメントを通じて、地元淡路島の伝統産業が直面する課題を深く理解し、地域の魅力を再発見する機会となりました。

「この映画を通して、又、淡路の活性化につながる事を望みます。」という参加者の声は、この講座が単なる鑑賞会に留まらず、今後の地域振興への意識を高める役割を果たしたことを示しています。

今後も、地域に根差したテーマを扱う企画を通じて、幅広い世代が故郷の文化や産業について学び、継承の重要性を考える場を提供してまいります。

